話題提供

一般社団法人
やまぐち共創大学コンソーシアム
General Incorporated Association
Consortium of Higher Education Institutions for Co-Creating Yamaguchi

YAMAGUCHI UNIVERSITY 山口大学　公立大学法人 山口県立大学 Yamaguchi Prefectural University　山口学芸大学 Yamaguchi Gakugei University

山口大学・山口県立大学・山口学芸大学による

連携開設科目の開設・実施

山口大学 学長特命補佐（教育支援改革担当）
教授　野崎 浩二

1

連携開設科目

大学設置基準 第十九条の二

他の大学が当該大学と連携して開設した授業科目（連携開設科目）を当該大学においても自ら開設したものとみなす特例措置

条件がいくつかあり、その中の一つに

「大学等連携推進法人の下で」

2

山口大学・山口県立大学・山口学芸大学が進める地域活性化人材育成の概要

3

地域活性化人材育成事業～SPARC～　タイプ①

「ひとや地域（まち・文化・教育）のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成」

山口大学　（学部間連携課程）
ひと・まち未来共創学環　R7年度設置

山口県立大学　国際文化学部再編
情報社会学科　R7年度 設置
国際文化学科　R7年度 新カリキュラムスタート
文化創造学科　R7年度 新カリキュラムスタート

山口学芸大学　教育学部教育学科
「文系DX教員養成プログラム」R8年度 開始

4

３大学それぞれで個別の学位プログラムを展開

学位プログラムの中に「**SPARC教育プログラム（すべて必修科目）**」を設置

３大学共通必修の連携開設科目，共同実施科目および各大学が独自に設置する授業科目で構成

各大学の学位プログラム

各大学の分野専門教育科目

各大学独自の授業科目でそれぞれの「**強み**」を身に付ける

SPARC教育プログラム（必修科目）

ひと・まち未来共創学環（山口大学） 45単位
国際文化学部（山口県立大学）33単位
文系DX教員養成プログラム（山口学芸大学） 35単位

STEAM人材育成系列

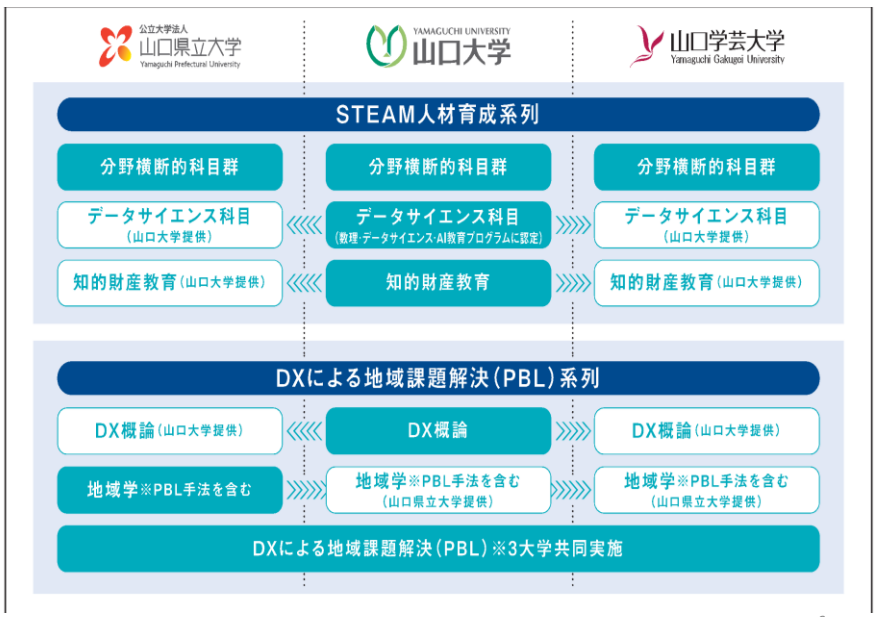
分野横断的科目群　知的財産教育　データサイエンス科目

DXによる地域課題解決（PBL)系列

「DX概論」「地域学」「DXによる地域課題解決(PBL)」

5

SPARC教育プログラムにおける主な連携開設科目



6

SPARC教育プログラムで身に付ける６つの力

①物事を俯瞰（メタ）的に捉え思考する力
　a：広い基礎教養と思考法
　b：地域課題解決に資する基礎的専門知識（分野横断的に学習）

②知的財産に関する知識

③データサイエンスに関する基礎知識・技能

④地域の特性や特色を理解し，自ら課題を抽出できる力

⑤課題解決においてDXを実践できる知識・態度

⑥課題に対して，身につけた知識や技能を活用して解決に向けた
企画・立案ができ，他者と協働して解決を図ることができる力

各学位プログラムのDPに接続

7

例　山口大学「ひと・まち未来共創学環」の ディプロマ・ポリシー(DP)

［１］幅広い教養と汎用的技能

1-1. 分野横断的基礎教養
分野横断的な幅広い知識と基礎教養を身につけ，様々な視点から物事をとらえて柔軟に思考できる。[DP1-1]

1-2. 数理的素養
数量的素養（数量的スキル）を身に付け，地域社会（ひと・まち）の様々な物事を定量的に分析することができる。[DP1-2]

1-3. デザイン思考・コミュニケーション能力
デザイン思考の基礎及びコミュニケーション能力を身につけ，課題の発見や解決に活かすことができる。[DP1-3]

［２］専門的な知識・技能

2-1. 心理・行動科学的素養
心理学や行動科学の知識・技能を活用して地域社会の中での人の心の状態や行動について論理的に考えることができる。[DP2-1]

2-2. 社会科学的素養
経済学・経営学をはじめとし，社会学，地域学を含めた社会科学の知識・技能を活用して地域社会（ひと・まち）の状況を量的，質的に分析することができる。[DP2-2]

2-3. デジタル技術・AI 技術活用力
デジタル技術やAI 技術の概要を理解し，地域社会の分析や課題解決への活用を提案できる。[DP2-3]

2-4. 問題解決力
心理・行動科学的素養，社会科学的素養，デジタル技術・AI 技術を活用し，地域社会（ひと・まち）の問題解決につなげることができる。[DP2-4]

［３］自律・協働する力と物事をかたちにする力
心理・行動科学的素養，社会科学的素養，デジタル技術・AI 技術を活用しながら，他者と協働し，地域社会（ひと・まち）の価値創出につなげることができる。[DP3]

8

例　山口大学「ひと・まち未来共創学環」のSPARC教育プログラムの授業科目と「SPARC教育プログラムで身に付ける６つの力」および「学位プログラムのDP」との関係

				ピンクは連携開設科目、他：共同開設科目、						身に付ける資質・能力										
			標準単位数（最低限）	授業科目	連携開設科目	他大学との共通状況	履修	単位	年次	SPARCプログラム							分野専門教育プログラム		
										①		②	③	④	⑤	⑥	山口大学		
										a	b						DP1	DP2	DP3
SPARC教育プログラム	DXによる地域課題解決PBL系列	地域課題PBL	4	DXによる地域課題解決（PBL）Ⅰ		3大学共通必修	必修	2	3							○		○	
				DXによる地域課題解決（PBL）Ⅱ		3大学共通必修	必修	2	3							○		○	
		DX教育	2	DX概論	○	3大学共通必修	必修	2	2						○			○	
		地域学	2	地域学	○	3大学共通必修	必修	2	2					○				○	
	STEAM人材育成系列	データサイエンス教育	8	データ科学と社会Ⅰ	○	2大学共通必修（山、学芸）	必修	1	1				○					○	
				データ科学と社会Ⅱ	○	3大学共通必修	必修	1	1				○					○	
				統計学概論	○	3大学共通必修	必修	2	2				○				○		
				人工知能概論	○	3大学共通必修	必修	2	2				○					○	
				データ科学のための基礎数学	○	3大学共通必修	必修	2	1				○				○		
		知的財産教育	1	知的財産入門	○	3大学共通必修	必修	1	1			○					○		
		分野横断的専門	10	人間行動科学入門（心理学概論）			必修	1	1		○							○	
				知覚・認知心理学Ⅰ			必修	1	2		○							○	
				「産業・組織とひとづくり」の心理学（産業・組織心理学）			必修	2	2		○							○	
				デザイン思考論	○	2大学共通必修（山、県）	必修	2	2		○						○		
				地域文化論	○	2大学共通必修（山、県）	必修	2	1		○							○	
				コミュニティデザイン論	○	2大学共通必修（山、県）	必修	2	2		○							○	
		分野横断的教養	18	基礎セミナー			必修	2	1	○							○		
				山口と世界			必修	1	1	○							○		
				分野横断的教養科目群															
				哲学			必修	1	1	○							○		
				歴史学			必修	1	1	○							○		
				社会学			必修	1	1	○								○	
				経済と法1			必修	1	1	○								○	
				経済と法2			必修	1	1	○								○	
				経済と法3			必修	1	1	○								○	
				自然科学1			必修	1	1	○							○		
				自然科学2			必修	1	1	○							○		
				人間の発達と育成1			必修	1	1	○							○		
				人間の発達と育成2			必修	1	1	○							○		
				文化の継承と創造1			必修	1	1	○							○		
				文化の継承と創造2			必修	1	1	○							○		
				社会と医療			必修	1	1	○							○		
				環境と人間			必修	1	1	○							○		
				食と生命			必修	1	1	○							○		

共同実施科目 「**DXによる地域課題解決（PBL）**」

3大学それぞれが開設（連携開設科目ではない）
3年生の前期2単位，後期2単位の必修科目
学年末に合同発表会を開催（令和5年度，6年度に試行）

令和6年度DXによるPBL合同発表会 2025年2月13日　於：山口県立大学

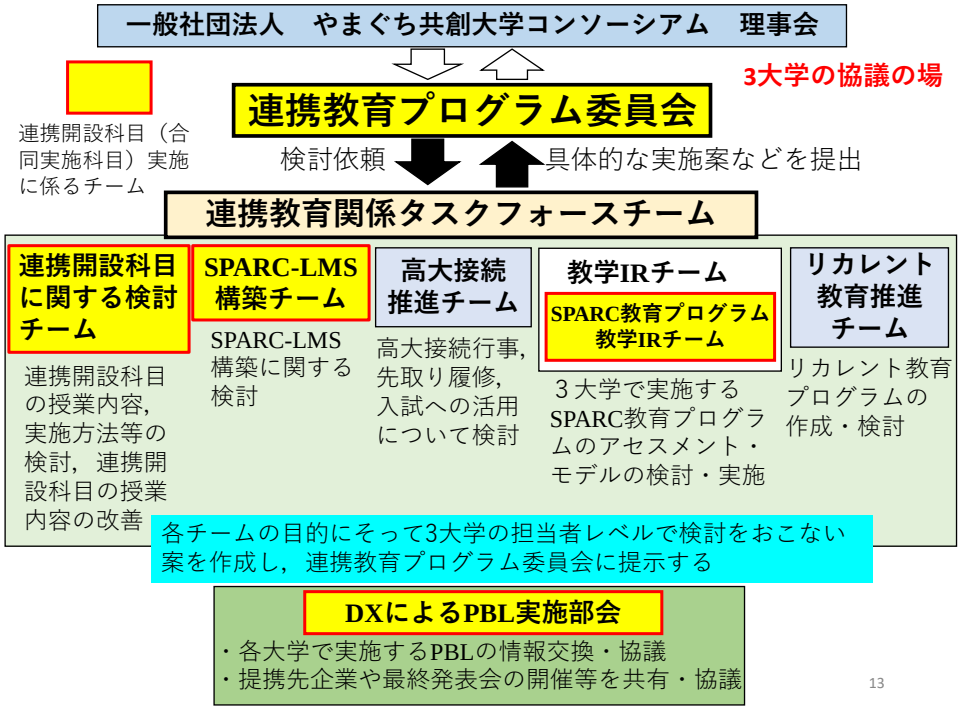
参加者232名（学生：84名，企業・団体・自治体等：74名，大学・高校教職員：77名）

SPARC事業の説明

PBLポスター発表（18件）

PBLテーブルトーク（企業・自治体等（40テーマ）と学生が地域課題について議論）

今までに何をどのように準備し，何を決めてきたか



13

教育リソースの有効活用

「時間と場所を合わせる」

・連携開設科目の３大学１クラス開講可能な授業実施方法

令和5年度まで

最大20分ずれ

令和6年度から

山口大学と山口学芸大学の時間割を山口県立大学の時間割に合わせる

学年歴も可能な限り統一

・連携開設科目は原則としてオンラインで実施

「SPARC教育プログラム連携開設科目の実施要項」

14

「SPARC教育プログラム連携開設科目の実施要項」

教育の質保証

例

・オンライン方式授業の受信側には必ず「補助教員」あるいは「TA・SA」を配置する

・オンライン方式授業の場合も１回目を含む数回は対面方式で実施することを可能とする

・３大学１クラス開講におけるハイフレックス方式授業において対面授業会場を3大学で巡回することを可能とする

・各大学の学生の特性に合わせた科目設置
数学の基礎科目を連携開設科目で開設
（授業科目の提供は総合大学である山口大学）

・アセスメントプランとルーブリックによる教育の質保証

15

「SPARC教育プログラム連携開設科目の実施要項」

授業担当教員の負荷低減のための措置

・連携開設科目には開講大学にカウンターパート教職員を配置する

シラバス書き方，教室希望，授業実施時の学生への対応方法，
定期試験の監督，実施方法の相談

「カウンターパート教職員の対応事項」

・３大学のシラバスの作成方法のマニュアル化

教員が所属する大学のシラバスを作成すれば，他大学のシラバスに
機械的に転記できる方式（自動転記には至っていない）

「SPARC連携開設科目のシラバス作成」

「SPARC連携開設科目のシラバス作成（別紙）①
（山口大学シラバス→山口県立大学シラバス編）」

16

その他

休講措置

「台風等の自然災害発生時における各大学での休講対応について」

補講
公認欠席制度（山口大学以外には公認欠席制度がある）
期末試験
成績評価

「SPARC教育プログラム連携開設科目の実施要項」

修了証（3年次終了時点）の発行

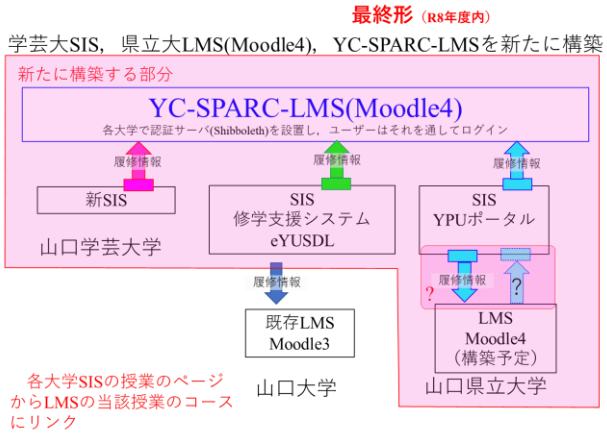
「SPARC教育プログラム修了証の発行等」

17

授業実施支援

３大学で共同運用するLMSの構築

YC-SPARC-LMS(moodle4)を令和8年度までに構築
山口大学に設置・山口大学で管理



各大学のSISからの履修者データのLMSへの流し込みシステムの構築

「一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム社員間における学生の個人情報の取扱いについて」

18

アセスメントプランとルーブリックによる教育の質保証

「SPARC 教育プログラム アセスメントプラン」 3月中に完成

１．目的

やまぐち大学共創コンソーシアム（以下「コンソーシアム」）のもとで山口大学、山口県立大学、山口学芸大学（以下「３大学」）が開設するSPARC 教育プログラムは、それぞれの大学で該当する学環・学部学科・コース等で提供する教育プログラム（学士課程）の一部をなすものである。

SPARC 教育プログラムは３大学共通のフレームワーク（「STEAM 人材育成系列」「DX による地域課題系列」）からなる。この枠組みの中で、連携開設科目、共同開設科目、各大学独自の科目を置いている（別添資料１）。

そこで、各大学のSPARC 教育プログラムの学修成果・教育成果を可視化し、３大学間で総合的に点検・評価することを目的に、アセスメントプランを定める。

２．観点

SPARC 教育プログラムの点検・評価は、以下の２つの観点から行う。

・学生の学修成果の点検・評価

学生がSPARC 教育プログラムで学んだ成果を自ら点検し、獲得した力やその活用に向けた取り組み意欲を自覚することで、さらなる自己成長を目指すこと

・大学の教育成果の点検・評価

３大学がそれぞれの教育成果を可視化し、３大学間で総合的・継続的に点検・評価を行うことで、学修支援や教育改善に活かすこと

・・・・

SPARC 教育プログラムのルーブリック 学生自身が成長を自己評価

A. SPARC教育プログラムのルーブリック

【「文系DX人材」の基礎力養成：SPARC教育プログラムで身に付ける資質・能力と科目との関係】 20250206 修正案

ひとや地域（まち・文化・教育）のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成 ※一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ（well-being）の考え方に立ってDXを実践し、ひとや地域（まち・文化・教育）の課題解決のために貢献できる者を「文系DX人材」とよぶ。

黒：1年生科目、青：2年生科目、緑：3年生科目

		C	B	A	S	SS	山口大学授業科目 申請中のため変更の可能性有	山口県立大学授業科目	山口学芸大学授業科目
①－a	物事を俯瞰（メタ）的に捉え思考する力：幅広い基礎教養と思考法	世の中の出来事に対する一定の関心はあるが、幅広い基礎教養に根づいた知識の獲得や、物事に対する自らの見方や考え方を表現するための思考法に関するスキルはまだ十分でない。	世の中の出来事に対する一定の関心があり、幅広い基礎教養に根づいた知識の獲得や、物事に対する自らの見方や考え方を表現するための思考法に関するスキルの獲得が進んだ。	世の中の出来事に対する強い関心があり、幅広い基礎教養に根づいた知識や、物事に対して自らの見方や考え方を表現するための思考法に関するスキルを獲得した。それをもとに、他者に対して自らの意見や考えを述べたり、他者の意見を受けとめたりすることができる。	国内外の出来事に対する幅広い関心をもち、それらの普遍性や特異性に関する学問的教養に根づいた知識が身に付いている。それらをもとに、物事に対する多面的な見方や考え方を他者と共有したり、多様な人々の意見や考えを調整したり、取りまとめたりすることができる。	国内外の出来事に対する幅広い関心をもち、それらの普遍性や特異性に関する学問的教養に根づいた豊かな知識が身に付いている。それらをもとに、物事に対する多面的な見方や考え方を創造的に発展させための思考力を身につけ、活用することができる。	基礎セミナー 山口と世界 哲学 歴史学 社会学 経済と法１ 経済と法2 経済と法3 自然科学1 自然科学2 人間の発達と育成1 人間の発達と育成2 文化の継承と創造1 文化の継承と創造2 社会と医療 環境と人間 食と生命	やまぐち未来デザインプロジェクトⅠ やまぐち未来デザインプロジェクトⅡ	大学教育基礎演習 データ科学とプログラミング 哲学 美術概論 暮しのなかの科学 地域理解
①－b	物事を俯瞰（メタ）的に捉え思考する力：地域課題解決に資する基礎的専門知識（分野横断的に学習）	ひとや地域社会が抱える課題に対する一定の関心はあるが、課題解決に必要な基礎的専門的知識の獲得や、文理の枠を超えて、また、複数の分野にまたがって考えるためのスキルはまだ十分でない。	ひとや地域社会が抱える課題に一定の関心があり、課題解決に必要な基礎的専門知識を獲得したり、文理横断的に、また、複数の分野にまたがって考えるためのスキルの獲得が進んだ。	ひとや地域社会の抱える課題に対する強い関心があり、課題解決に必要な基礎的専門知識や、分野横断的に考えるためのスキルを獲得した。それをもとに、課題を見出したり、他者に論理的に説明したりすることができる。	ひとや地域社会の抱える課題に対する幅広い関心をもち、多くの分野を結びつけて課題を見出したり、データや根拠を用いて説明したり、他者と共有したりすることができる。	ひとや地域社会の抱える課題に対する幅広い関心をもち、多くの分野を結びつけて、データや根拠をもとに自ら課題解決に向けて道筋を立てて考えたり、他者の多様な意見を踏まえて創造的に発展させたりすることができる。	人間行動科学入門（心理学概論） 知覚・認知心理学Ⅰ 「産業・組織とひとづくり」の心理学 （産業・組織心理学） 地域文化論 デザイン思考論 コミュニティデザイン論	地域文化論（科目提供大学） デザイン思考論（科目提供大学） コミュニティデザイン論（科目提供大学）	自主課題演習Ⅰ デザインと造形 国際論
②	知的財産に関する知識 （※知的財産：人間の知的活動によって生み出されたアイデアや創作物が有する財産的な価値）	知的財産に関する基礎的な知識が十分でなく、地域や社会の中にある知的財産に気づくことができない。	知的財産に関する基礎的な知識の獲得が進み、地域や社会の中にある知的財産に気づくことができる。	知的財産に関する知識を、地域や社会の中にある具体例と関連づけて説明できる。	知的財産に関する知識をさまざまな科目に応用する必要性についての理解が進み、地域や社会での知的財産に関する課題を把握・整理したり、自らの専門領域に関する知識と関連付けて思考したりすることができる。	知的財産に関する知識をさまざまな科目に応用し、地域や社会での知的財産に関する課題を把握・整理したり、自らの専門領域に関する知識と関連付けて思考したりする中で、必要に応じてどのような専門家や専門機関に相談するか判断できる。	知的財産入門（科目提供大学）	知的財産入門	知的財産入門
③	データサイエンスに関する知識・技能	データサイエンスやAI等に関する知識、基本的なツールの使い方についての技能はまだ十分でない。	データサイエンスやAI等に関する知識の獲得が進み、基本的なツールの種類や使い方に関する理解も進んだ。	データサイエンスやAI等に関する知識を獲得した。基本的なツールの使い方を理解し、活用できる。	データサイエンスやAI等に関する知識やツールの使い方に関するスキルが身に付いた。また、適切なデータ分析方法を選択して、問題を解決する道筋を議論することができる。	データサイエンスやAI等に関する知識やツールの使い方に関するスキルが身に付き、適切かつ具体的なデータ分析方法を選択して結果を出したり、結果の示す意味などについて解釈したりすることができる。	データ科学と社会Ⅰ（科目提供大学） データ科学と社会Ⅱ（科目提供大学） データ科学のための基礎数学（科目提供大学） 統計学概論（科目提供大学） 人工知能概論（科目提供大学）	データ科学と社会Ⅰ データ科学と社会Ⅱ データ科学のための基礎数学入門 データ科学のための基礎数学 データサイエンス概論 データサイエンス演習 統計学概論 人工知能(AI)概論	データ科学と社会Ⅰ データ科学と社会Ⅱ データ科学のための基礎数学 統計学概論 人工知能概論
④	地域の特性や特色を理解し、自ら課題を抽出できる力	地域の特性や特色について自ら考察した経験がまだ少なく、課題を見出すために必要な知識はまだ十分でない。	地域の特性や特色に関して一定の関心があり、課題抽出に必要な基礎的な知識についてはある程度理解できるが、課題を見出すまでに至っていない。	地域の特性や特色に基づいて、課題を見出すことができる。また、データや根拠、デジタル技術等を用いて課題を理解するための知識を身につけている。	地域の課題を理解するために十分な知識を身につけ、データや根拠、デジタル技術等を用いて、課題解決に向けて他者と協働しながら少なくても１つの道筋を見出すことができる。	地域の課題を理解するために十分な知識を身につけ、データや根拠、デジタル技術等を用いて、他者と協働しながら課題に対する適切かつ具体的な複数の解決策を示すことができる。	地域学	地域学（科目提供大学）	地域学
⑤	課題解決においてDXを実践できる知識・態度	DX実践について自ら考察した経験や、課題を見出す経験、必要な知識を身につける機会が少なく、知識はまだ十分でない	DX実践について一定の関心があり、基礎的な知識をある程度理解しているが、課題を見出すまでに至っていない	DX実践への関心があり、実践事例を理解でき、必要な知識を身につけている	DX実践への関心が深まり、実践事例の応用例を想像でき、必要な知識を身につけているとともに、課題解決への取り組み意欲を有している	DX実践にあたり十分な知識を身につけ、課題解決に向けて少なくとも1つの道筋を見出すことができるとともに、課題解決への取り組み意欲を有している	DX概論（科目提供大学）	DX概論	DX概論
⑥	課題に対して、身につけた知識や技能を活用して解決に向けた企画・立案ができ、他者と協働して解決を図ることができる力	DXによる地域課題の解決に対し、基礎的な知識やスキルがまだ十分でなく、自ら企画・立案を行う経験も少ない	DXによる地域課題解決に必要な基礎的な知識やスキルが何であるかをある程度理解し、課題解決に向けた具体的な目標設定や企画立案方法にどのようなものがあるについて調べたり議論したりすることができる。	DXによる地域課題に対し、学んだ知識やスキルを活用して、学生同士で協力し、課題解決に向けた具体的な目標設定や企画立案を行うことができる	DXによる地域課題に対し、身につけた知識やスキルを活用して、外部団体や対象者等との連携を通して課題解決に向けた具体的な目標設定や企画立案を行い、提案を見直したり、修正したりすることができる	DXによる地域課題に対し、身につけた知識やスキルを活用して、外部団体や対象者等との連携を通して課題解決に向けた具体的な目標設定や企画立案を行い、実証結果をふまえてその結果を振り返り、問題点や課題を見出すことができる	DXによる地域課題解決(PBL)Ⅰ DXによる地域課題解決(PBL)Ⅱ	DXによる地域課題解決(PBL)Ⅰ DXによる地域課題解決(PBL)Ⅱ	DXによる地域課題解決(PBL)Ⅰ DXによる地域課題解決(PBL)Ⅱ

B. SPARC教育プログラムに関する満足度評価

SPARC教育プログラムを履修して、いずか当てはまるもの一つに〇をつけてください

1年終了時の回答

・自分自身の成長について： 1. 不満足 2. やや不満足 3. どちらともいえない 4. まあ満足 6. とても満足 そのように判断した理由を書いてください（ ）

・教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑについて： 1. 不満足 2. やや不満足 3. どちらともいえない 4. まあ満足 5. とても満足 そのように判断した理由を書いてください（ ）

2年終了時の回答

・自分自身の成長について： 1. 不満足 2. やや不満足 3. どちらともいえない 4. まあ満足 6. とても満足 そのように判断した理由を書いてください（ ）

・教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑについて： 1. 不満足 2. やや不満足 3. どちらともいえない 4. まあ満足 6. とても満足 そのように判断した理由を書いてください（ ）

3年終了時の回答

・自分自身の成長について： 1. 不満足 2. やや不満足 3. どちらともいえない 4. まあ満足 7. とても満足 そのように判断した理由を書いてください（ ）

・教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑについて： 1. 不満足 2. やや不満足 3. どちらともいえない 4. まあ満足 6. とても満足 そのように判断した理由を書いてください（ ）

ルーブリックの説明と自己評価時期

プログラム開始時の説明と現状確認
1年オリエンテーション時

⇩

プログラム中の自己評価
1 年終了時または2年オリエンテーション時
2 年終了時または3年オリエンテーション時

⇩

プログラム終了時の自己評価
3年「DXによる課題解決(PBL)」終了時

21

連携開設科目の試行実施（令和5年度・令和6年度）

「DX概論」
山口大学の教員が山口県立大学で対面方式の授業実施

「地域学」
ゲストによる講義を山口大学から発信し，山口県立大学で受信

「地域学」メタバースを使用したオンライン授業

22

令和5年度および令和6年度の連携開設科目の試行の検証

連携開設科目に関する検討チーム
SPARC 教育プログラム教学IR チーム

⇩

「**連携開設科目についての改善計画**」の作成

⇩

「**令和7年度からの連携開設科目の実施について**」
を連携教育プログラム委員会に提出・決議

⇩

「**SPARC教育プログラム連携開設科目の実施要項**」の改訂

⇩

令和7年度からの開始に反映

23

FDの開催と実施計画

第１回　「大学と地域を往還する学びのデザイン
ー地域で学び、地域を活かすPBL—」

講師：広石 英記氏（東京電機大学　副学長）

2024年 2月 15日（木）

第２回　「データとデジタル技術の活用を織り込んだ
PBLの進め方案について」

講師：湯浅 修一（山口大学 准教授　DX 人材育成推進室 副室長）

2025年 2月 13日（木）

今後実施の計画

LMS［Moodle］に関するFD研修会（仮）

1．Moodleの使い方の紹介（令和6年度中）

2．LMS[Moodle]の基本的な使い方から効果的な利活用の方法
等について段階的に学ぶ（数回）（令和7年度以降）

オンライン授業の方法に関するFD研修会（仮）

24

学生・教員の反応など

「DX概論」，「地域学」，「知的財産入門」，「データ科学と社会I・II」

授業内容に関して

・学生の授業の満足度は高い。

・到達目標の達成度は学生の自己評価，教員の評価とも良好である。

・学生は他大学の教員の授業を受けることが新鮮で楽しい。

・ 山口大ではない授業実施方法が体験できてよかった。

・「データ科学と社会II」の内容が難しく到達目標に達しなかったという学生の評価が一定数ある。←元々の学部の専門性とのギャップ？

25

教員の反応

・他大学の授業を担当することで自大学の授業よりも慎重に授業設計・準備に取り組んでいる。
・教員はオンラインによる授業実施に不安感がある。
・オンラインでの授業実施に新しい可能性を感じている。
・オンライン授業に関する自身のスキルアップの必要性を強く感じている。

・オンラインの授業であっても、オンサイトに山口県立大学のカウンターパートの教員が常時いてくれて質問対応をしていただけた。
　また、8回のうち、3回は実際に教室に赴いて授業を行い、実習中は教室内を巡回しながら学生の質問に対応していた。

・オンラインかつ他大学生という条件の中で，どのようにコミュニケーションを取るべきか、や距離感をつかみ損ねている点が課題である。

・zoomを活用することで**その場にいなくとも共に学ぶことができるという「学習すること」に対しての柔軟性や可能性を感じ、今後の学校の在り方に生かすことができるのではないか**と感じることが出来た。

26

他大学の学生と学ぶことに対する学生の反応

評判がとてもよい

・普段関わることのない自大学／他大学の人々のプレゼンを聴くことができ、**視野が広がった。**
・山口県立大学の皆さんの意見や発表を聞くことができ、非常に良かった。
・山口大学の皆さんの意見も聞くことができて**自身の考えを深めることができた。**
・**自分達だけでは出ないであろう着眼点に驚いた**りなど、有意義な講義をうけることができたのがよかった。
・他大学の人は自分たちの大学にはない学科がありその人たちの視点に普段触れることができないので、**連携開設科目は、普段得ることのできない考え方を知ることができる良い科目だと思う。**
・山口大の学生が非常に積極的に質問していたため、私も質問をしようと奮起することができた。
・**山口大の学生と共同して取り組んでいるという実感があってとても新鮮だった。自分の大学からは出ないような意見を聞くことができてとても刺激を受けた。**

27

学生はもっと他大学の学生と授業内で交流したいと感じている

・山口大学の学生さんたちと最後に意見を交換できたことはよかった。しかし、それ以外では、なかなかコミュニケーションを取ることが出来なかったので、**もっと意見交換をしたい**と感じた。

・他大学と触れ合う機会があまりなかったため、山口大学と合同での授業を行うのは良いと思った。しかし、せっかくオンラインで山口大とつながっているのに、**お互いが授業の意見を言い合うだけというのは少しもったいないと感じた。**

・改善点：**せっかく山口大と連携しているのに交流が全くなかったのでもっと交流できる時間を設けてもよい**と感じた。

・違う大学の人たちと交流でき、いろんな意見が聞けた。それがよかった。**オンラインだけでなく、実際に会って交流もしてみたい。**

・相手側の大学の意見や考え方を知れたこと。また同時にこちら側も意見の交換ができたことがよかった。**同じ山口県にある大学なので感じている問題点や現状の不満には共通点があった。実際に対面での交流があったら、もっと発展させた内容で講義の内容理解を深めることが出来たと感じた。**

28